

巻頭言

病院図書室に期待すること

徳島赤十字病院 院長
片岡 善彦

病院図書室に期待することは、先人の方々が書かれたことに尽きると思いますが、病院図書室に関して自分の視点で少し書いてみます。

病院図書の本来的な目的は何か、答えは「病院医療が適切に行われるための重要な支援具である。」と言えます。そのためには、病院図書を充実させることは病院経営の必須項目であります。最近ではIT化が進み、これを有効利用することも図書部門の仕事となって来ています。

これらの前提に立って、病院図書室の将来を考えてみたいと思います。

①病院図書室は今後も病院内に広い空間が必要か？

前述した通りIT化進行の状況で、必須書籍の選別の重要性のもとに、広い空間は縮小出来るようになるかと推測出来ます。

②図書部門管理はどうなるか？

大きくは変わらないと思いますが、患者さまをはじめ一般の人々への対応（開放）、書籍管理、IT機器管理が求められるでしょう。

③病院図書室の地域の人々（一般）への開放は？

開放は当然考えられますが、一定の管理体制は必要となるでしょう。病院内における図書部門の位置は、管理部門の中あるいはそれ

に近い場所が多いようです。これは空間の自由開放は難しいことを表しているように思います。

④図書を単に開放すればよいのか？

開放においても、利用者に適切な助言者が必要であり、図書管理者のみでなく、医師等が参与する必要があります。図書部門以外にアクセス拠点が複数必要となります。

⑤有料か無料か？

一応は議論の対象となると思います。

⑥コピー機等の補助的機器は？

コピー機、パソコン等の補助的機器の整備と管理は必須です。

⑦運用費用に対することは？

運用コストは常に正確に把握し、そのコストが正確か否かの判断ができなければなりません。

⑧図書開放はホスピタリティーマインドの一つになるか？

運用内容により当然、差が出てきますが、ホスピタリティーマインドには必ずなると思います。

以上、思いつくままに書き出してみました。一つの病院でなく赤十字病院 Group、地域の図書館等とも連携して、医療情報提供の拠点になることも病院図書室の役割だと思います。